

先進的あるいは特色ある教育課程	学校名等	課程
「主体的・対話的で深い学び」	栃木県立大田原女子高等学校	全日制普通科

ア 取組状況について

① 教育課程

(教育課程編成)

- ・創立108周年の女子高で、1・2年次5クラス、3年次6クラスの計16クラスである。
- ・本校では、平成26年度より「主体的・対話的で深い学び」(以下ALと表記する)の研究と実践を全校的体制で進めてきている。
- ・ALの手法を取り入れることにより、生徒が習得した知識等を活用し、思考力、判断力、表現力等を高めると共に、主体的で対話的な学習態度を身につけることを基本的な目標としている。特に年度当初には新任者を含めた共通認識の形成にも力を入れている。
- ・6年目を迎えた今年度は、教員対象のAL実施状況調査、生徒対象の授業評価アンケートなども活用し、「深い学び」「R80の定着」「可視化」「AL20」「ICT機器の活用」をキーワードに、より組織的で、より質の高い実践を旨としている。

(授業展開)

- ・「AL指数」を参考に授業を実施している。今年度も目安をAL20としている。黒板に掲示できるマグネット式の大型タイマーを活用した授業展開が基本となっている。
- ・教科や教員により書画カメラやプロジェクタ、パソコン、タブレットなどICT機器を有効に組み合わせた授業を行っている。
- ・ペアワークやグループワークを日常的に行っている。授業内での切替えを含めて生徒も自然体で取り組んでいる。
- ・保健や芸術科目を含めてR80の積極的活用を図っている。昨年度の授業評価アンケートからは取組が進んだことが窺える。より一層定着させることが今年度の大きな目標である。
- ・数学では習熟度別授業の下、教えあいを効果的に行っている取組もある。
- ・1、2年次の総学がALの土壌を作ってきた。総合的な探求の時間との相乗効果を目指す。

② 教員の指導力向上

(教員研修)

- ・「参加者のコメント欄」を付けた「授業公開シート」を活用しての相互の公開授業見学が中心である。今年度は特に「協働作問」の成果を生かした教科内研修の充実と教科の枠を超えての「事例研究会」にも力を入れたい。必要に応じて先進校視察も行っている。

(外部人材の活用)

- ・平成26～29年度に、小林昭文氏、松本敏氏、若杉俊明氏、下町壽男氏、蘆田章吾氏、中島博司氏を招いて現職教育を行った。本校のALは中島氏のご教示によるところが大きい。

③ 校内組織

- ・若手のリーダーである進路指導副部長を委員長とするAL推進委員会を設置し、組織的で計画的な実践に努めている。
- ・公開授業については昨年度に続き公開期間(1・2学期に各1ヶ月間程度)を設けて期間内にAL指数を公表して授業を行っている。1日だけ外部にも公開している。

④ 施設設備

- ・栃木県の「アクティブ・スクール」プラン等を活用し、全教室にプロジェクタを、また、ミニホワイトボードを10枚ずつ、マグネット式の大型タイマーを1台ずつ整備した。

⑤ 取組の成果の(都道府県)全体への普及・共有方法

- ・近隣の大田原高校と研修会を共有し、それぞれが企画する研修会等に相互に参加している。6月の授業公開には保護者や近隣の小中学校、高校の教員が訪れて来る。

⑥ その他

- ・R80の取組は、論理的な思考力や表現力を育成する深い学びにつながるものであり、極めて有効であると考え一層の実践を進めている。記述式・論述式問題を解答するために必要な力をALを通して付けられるよう工夫する。

イ 今後の課題

- ・ALに対する評価法の確立(感覚的、経験則的な評価からの脱却)。実践面での二極化。
- ・グループワーク等について配慮を要する生徒に対しての合理的な対応。新任教員への対応。
- ・主体的な学習態度と対話的な学習との両立。ALの目的についての共通認識の形成。